

江東ライオンズ誕生秘話

江東ライオンズ総監督 藤瀬時彦

昭和49年、私が高校野球を終えたその夏休みに、リトルリーグのキャンプに参加しました。当時の監督である（故）塩野谷氏、コーチの丸林氏（現江東ライオンズ顧問）、マネージャーの久保氏、リトルリーグ関係者から野球の指導を頼まれました。その時の主力選手達（三村、後藤、中野、小野）が、今のライオンズの主力スタッフであります。当時は、江東シニアリーグ（エンジェル）合同でキャンプに行っておりましたので、リトルリーグを終えたあと、当然、主力メンバーは江東シニアリーグへ行くことになっておりました。

江東シニアリーグ監督である鈴木氏が砂町のリトルリーグ選手を連れてシニアリーグ監督をやってくれないかと言うことで、シニアリーグの指導に当たりました。約1年間、シニアリーグ監督をやり、素晴らしい選手がたくさんおりましたが、このチームでは、私の野球が教えられないと思い、塩野谷氏、久保氏、現代表の久保氏、丸林氏に相談した所、砂町の中学硬式野球クラブチームを作ろうという事になりました。

塩野谷氏がポニーリーグという新しい硬式野球リーグが出来たから、それに参加しようと言う事で、江東ライオンズを立ち上げました。チームは出来ても、選手は（三村、後藤、中野、小野）4名しかおりません。リトルリーグの6年生数名と大島に良い選手がいると聞き、私と塩野谷さんで会いに行きました。そこで出会ったのが白幡氏（西武ライオンズ→読売ジャイアンツ→大洋ホエールズ）です。その白幡氏が数名の選手を引き連れてきてくれました。それで、何とか選手の頭数がそろいましたが、野球道具もグラウンドもありません。最初の練習は、荒川の土手を毎週ランニングしか出来ませんでした。そこで、現監督である三村氏の父親である悦郎氏に初代会長をお願いした所、快く受けてくれました。青少年の育成のために遣ってくれと、当時のお金で10万円の寄付をくれました。それで、なんとか野球道具を揃え、グラウンドは創設者である塩野谷氏がタクシーの仕事をしており、明け番の朝一番で浦安の埋立地にネットを張り、なんとか確保してくれて、練習が出来ました。それでも、日曜日は毎週、各チームと競争で早い者勝ちだったので、土曜の夜からネットを張り、タクシーの中で一夜を過ごし、グラウンドを確保してくれました。野球用具も、私の車のボンネットに入るだけしかありませんでした。ボールも半ダース位しかありませんでしたので、とにかく絶対にボールをなくさないようにと、選手に強く指導しました。練習内容は、キャッチボール、トスバッティング、短い距離のノックしか出来ません。ランニング、キャッチボール、トスバッティング、基本練習を1年間、徹底してやりました。それが、功を奏し、私が思っていた以上に、選手達が力をつけ、中学生の吸収力の強さ、可能性の大きさに指導者としてのおもしろさを強く感じました。この初めての選手達が、3年の秋の大会には決勝まで進みました。決勝の相手は江戸川ポニーでした。

（伊東投手 現ヤクルトスワローズのピッチングコーチ）に敗れましたが、そののちに、高校野球の舞台でも三村始めライオンズの5人の選手達が二松学舎に進み、かたや伊藤投手は帝京高校に進み、秋の東京大会の決勝で当り、見事、帝京に勝ち、春のセンバツの出場を決めました。この甲子園出場を機に多くの小学生の選手達が、ライオンズに来てくれ

るようになりました。選手は集まり始めましたが、グラウンドがありません。なんとか、グラウンドを確保しようと、いろいろな人達が働きかけてくれました。区議会議員の米沢先生を始め、リトルリーグの美濃谷会長、久保マネージャー（現監督）の働きかけで、現在の場所を確保出来ました。しかし、グラウンドというより、石ころだらけ、草ボーボーで到底、野球が出来るような環境ではありませんでした。ここに、なんとか練習出来るようにとグラウンドを作ろうと、中学からの友人である（故）根津氏、成瀬氏両名をスタッフに入ってもらい、選手もスタッフも来る日も来る日もグラウンド作りに明け暮れました。私も当時、仕事が夕方の5時頃終わり、毎日グラウンド作りをやりました。選手達も練習というより、石拾い、草むしりに良く頑張ってくれたと思います。この頑張っている子供達に、なんとか良い環境で野球が出来るようにと、大人達（父兄）が立ち上ってくれました。丸八ラーメンの前田氏を始め、2代目会長松尾氏、3代目（故）本井氏、現在の会長である今泉氏、ポニーリーグの中で一番のグラウンドにしよう、子供達に良い環境で野球をやらせたいという強い意志が引き継がれました。こうした、多くの父母の力があり、ポニーリーグの大会で使えるまでになりました。最初の卒業生（現在のスタッフ）高校野球を終えて、ライオンズに帰ってきてくれました。これで、このチームはやっていると確信しました。三村氏、後藤氏は二松学舎、中野氏は安田学園で、3年間がんばってくれたおかげで、後に多くの後輩達が両校に進み、活躍することが出来ました。しかし、すべてが順風満帆ではありません。創設者の塩野谷氏の突然の死、私と成瀬氏、根津氏3人でチームを支えてきたその根津代表の事故死、根津さんは本当に選手達に愛され、苦しい時に、私や選手達を力強く支えてくれました。塩野谷さんや根津さんは、ライオンズの全国大会の優勝を見ずに、亡くなりましたので、必ずや、優勝すると心に誓いました。20年かかりましたが、優勝することが出来、塩野谷さんや根津さんのおかげだと思っています。私を、少年野球と出合わせてくれた、丸林氏、リトルリーグ、ポニーリーグの創設者である塩野谷氏、それから、東京北砂リトルリーグの久保氏（現監督）そして根津さん亡き後、ライオンズの代表を受けてくれた現在の代表である久保氏、久保さんは、10周年の時には、父母の立場から、また20周年の時には、チームの代表として、強いリーダーシップをとってくれました。また、代表として、多くのチームの改革にあたり、新しいライオンズの形作りを成し遂げてくれました。審判長の森氏、父母の中からの初めてのコーチとして、加わってくれた大野氏、それから長い間、マネージャーとして、グラウンドを守ってくれた第1期生の小野伸治氏、また、若い後継者として、若林氏を筆頭に、磯崎氏、平島氏、石田氏、若いコーチがたくさん出て来てくれました。このスタッフと共に、これからも頑張っていきたいと思います。

最後に、このチームを作るにあたり、私の恩師であります青木先生（前二松学舎、日大三高監督）に相談したところ、藤瀬、野球を教えるのではなく、野球道を教えなさいと言われました。私も50歳を越える年齢になりましたが、まだ野球道、子供達に人の道を説けるような人間ではありません。私共ども、素晴らしいこのスタッフまた選手、父母、一丸となって、この野球道を考え、なにが正しい道か、どうすれば良いかを探して行きたいと思います。

以上